

テーマ	実施クラス	実施保育者名
サイエンス	5 歳児 らいおん 組	川邊

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
散歩に行く機会が多いため、日常にある自然物や天気や普段から触れている環境である。そこから天気の変化や虹など現象や特徴について探究することで、色の変化や光のふしぎを感じ、興味関心を深められるようにする。	

活動スケジュール・活動内容	
4月	<p>戸外活動で訪れる公園で自然物を観察・探究する</p> <p>①植物や昆虫、公園には何がある？…ポケット図鑑を持参し、見つけたものを観察した。写真を撮ったり、持ち帰れるものは持ち帰り、更に深めていった。 ②見つけたもの、好きなものを共有する…観察して終わりではなく、オリジナル図鑑や地図として作成し、共有・伝え合った。</p>
5月	<p>戸外活動に影響のある天気について探究する</p> <p>①雲と雨…雲にいろんな形や種類があることを知り、雨の発生原理を知った。 ②雨と雪…実験を行い、空気中に水があることを知った。別の実験にて、雪の結晶を作る実験を行った。原理について知り、変化していく様子の観察を行った。 ③虹の色…虹は何色かを想像し、実験にて虹を発生させてみた。観察し、虹の塗り絵を行った。 ④影について…いろいろな形の影を作り、どうやったら思う形の影ができるか考え試してみた。できた影を観察した。</p>
6月	<p>先月探究した影について、深めていく</p> <p>①光と影…影が発生する原理について知った。懐中電灯を用いて、光の反射や影が発生する仕組みについて知った。 ②光の実験…光が反射する原理で、鏡を使った光のリレー遊びを通して光の反射について探究した。 ③光の反射、屈折について更に深める…コップに入れたストローが光の反射で見え方が変わる実験を行い、なぜ見え方が変わるのか考えた。 ④光と影に色はできる？…カラーセロファンと懐中電灯を用いて、光の色変化を楽しんだ。スタンドグラスの作成を行い、できあがった影や色について観察した。</p>

● 環境設定

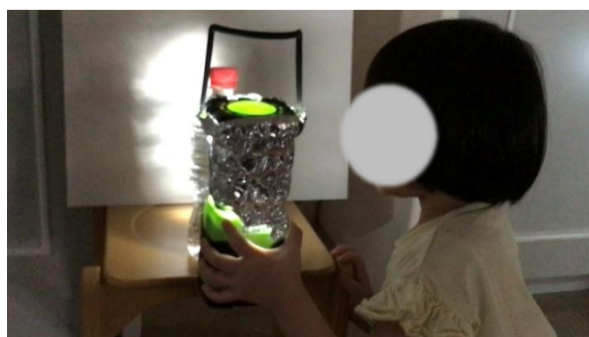
活動のために準備した素材・道具、環境設定
<p>子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本、雲や虹の写真などを用意した。 戸外活動にて自然物を調べる際のポケット図鑑と、持ち運べるサコッシュを用意。 図鑑、地図作成用にクラフト用紙や絵の具、クレヨン、はさみ、セロテープ、製本テープなど。 実験に用いるコップ、水、フェルト、懐中電灯、鏡、ストロー、カラーセロファン、アルミホイル、ペットボトルなど。</p>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・子どもたちに虹の仕組みと光の色について学ぶ機会を作った。 ・どのように虹が出来るかを自由に発想して意見を伝えあった ・最初に「虹は何色？」という問いを投げかけ、子どもたちは自分の考えを自由に発表した。 ・その後、虹を描いて光の色を予測をしたり、イラストを見たりして、実験を行い、光が水を通ると実際に虹が現れることを確認した。 ・ペットボトルと懐中電灯を使い、光が水を通することで色が分かる現象を観察し、実際に虹を作り、その過程を実感することができた。 ・光の当たり具合で色が出る様子が変わる変化に気づき、色々と試した</p>	<p>【子どもの姿・声】 ・「雨が止んでお日様の光が出たら虹が出来る」「雨がペットボトルの水で、お日様はライトってこと？同じこと？」と天気と結び付けて考える姿があった。 ・「なんでだろう！」「そうか！光とお日様は一緒なのかな？」と気づきを共有する場面もあり、興味津々で実験を進めていた。 ・実験後の振り返りでは、「光って何色があるんだろう？」とさらに深い質問を投げかけ、考えを広げる姿が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】 ・子どもたちの発言を受け入れ、さらに考えを深めるために「どうして虹の色が出るんだろう？」や「他の色はどんなところで見られるかな？」といった質問を投げかけた。 ・実験中には、「どんな変化が起こると思う？」と予測させ、実際の変化を観察しながら子どもたちの発見をサポートした。また、実験を通じて「光の色が混ざって虹になる」という結果を整理するために、子どもたちに「自分で見たことや考えたことを話してみよう」と促し、意見を自由に表現できるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・活動を通じて、子どもたちは太陽の光の色や虹の色に対する興味を深め、実験を通じてそれらの関係性を理解できた。 ・子どもたち同士で意見を交わしながら、考えを深める姿が見られた。予測と実験の結果の違いを楽しみながら、自分の考えを発表できたことが良い成果につながった。 ・次回も、子どもたちが自分で考えたり、仲間と意見を交わしながら進められるような活動を続けていきたい。 ・実験活動を取り入れたことで、子どもたちの理解が深まり、より興味をもって参加する様子が見られた。今後も実際に体験できる活動を取り入れていきたい。</p>	<p>自分たちで光の当て方や置き方などを試行錯誤しながら行ってくことで、うまくいかない体験を共有するということが出来た。失敗したことに後ろ向きにならず、次はこうしてみよう！と楽しんで試行錯誤する姿あり、そういった姿こそ、今の子どもたちに必要な体験であると感じた。また、普段は使用できない懐中電灯を使用できたり、暗闇の中で活動できる特別感も感じることが出来てとても楽しそうだった。水と太陽で今後も行うとより一層空の虹とつながりやすい機会をつくるとよい</p>



テーマ	実施クラス	実施保育者名
たべもの	5 歳児 らいおん 組	川邊

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
食べ物は子どもたちにとって日々の生活の中で非常に身近な存在であり、興味をもっている。普段の生活で接している水、また野菜について、またそもそもなぜ食べるのかを探究する。	
活動スケジュール・活動内容	
7月	<p>生きる上で欠かせない水について探究する</p> <p>①水とは何か？…色やにおい、形などの観察。水の流れや変化(水・氷・湯気)について学んだ。 ②水の役割？…園内外で水のある場所を探し、探索マップを作った。水の使われ方や役割を考える。 ③水はどこからくる？…雨や川など自然の水について学び、水が循環(雨→川→海→雲→雨)していることを知った。 ④水がもしなかったら？…水の必要性、ないとどうなるか？、大切に使うにはどうするか？考えた。</p>
8月	<p>野菜そのもの、またどうやって育ち、どこを食べているのかを探究する</p> <p>①野菜って何？…さまざまな野菜に触れて観察し、色・におい・感触・形など、種類による違い、特徴を知った。 ②どこにできるの？…野菜がどのように育つ(土の中・上)かを考えた。共通点、違いは何かを考えた。 ③食べているのはどこ？…根や茎、葉、花など部位があり、食べているところはどこか、他は食べられないのか探究した。 ④野菜カードを作る…調べたことや知ったことをオリジナルの野菜カードにまとめ共有しあった。</p>
9月	<p>食べ物がどうやって手に届き、食べた後どうなるのかを探究する</p> <p>①なぜ食べる？…体のつくり、働きを知る。食べたごはんがどうなるのか、気持ちや体の変化を考えた。 ②食べ物の働き…体を動かす、体をつくるなど、食べ物の働きを知った。給食と絡め、体の中でどう働くのかを考えた。 ③どうやって手元に届く？…食べ物がどうやってできるか、手にするまでの生産過程について知った。 ④旅マップの作成…食べ物がどうやって作られ、運ばれ、手に届き、そして体内でどう働くのかのマップを作成した。</p>

● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
<p>子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本を用意した。 水の形について皿やコップ、袋などを用意。水の変化についてお湯や氷を用意した。 数種の野菜を用意し、細かく観察できるように虫眼鏡を用意。 食べ物がどこから来たのか、商品パッケージなど産地が分かるものを用意。またスーパーのチラシなど、どんなものがあり、どこから来たかを想像できるようにする。 野菜カードや旅マップ作成のためカードや模造紙を用意。</p>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・野菜についてのイメージや知っていることをを問いかけ、発言してもらう。 ・虫眼鏡の使用法を確認し、野菜の観察を行った。色やにおい、重さ、かたさ、触感、ヘタの有無などについて探究を深めた。 ・野菜の中身の観察では、どんな中身かを予想したあとに、切った断面や中の様子を見比べた。 ・振り返りでは観察での発見や感想を友達と共有する時間を設けた。</p>	<p>【子どもの姿・声】 ・野菜を手に取り、においをかいだり、虫眼鏡でじっくり観察したりと五感を使って観察していた。 ・「タネがある」「これはネバネバしてる」「スタンプにすると形がちがうね」と友だち同士言い合いスタンプを楽しんでいた。見た目や手触りの違いに気づいて言葉にしていた。</p> <p>【保育者との関わり】 ・子どもの発見やつぶやきを受け止め、「ほんとだね、においはどう？」「他の野菜とくらべてみようか」と問いかけを返して、さらに探究を深めるサポートをした。 ・子どもの気づきを言語化しやすいように、「つるつる」「ざらざら」「ふわふわ」などの言葉を一緒に使いながら対話をした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、普段何気なく食べている野菜にも多くの発見を見出し、観察を通して「野菜って面白い」「もっと知りたい」という探究心が高まっていた。 ・見て、さわって、話して、比べるという経験を通して、子どもたちは自然と観察力や表現力を育んでいた。 ・“食べもの”としてではなく、“自然の不思議”として野菜に向き合う機会になり、食育と探究の接点を実感した。 ・普段の食事では見過ごしがちな野菜の特徴に対して、子どもが自ら気づき、他者と共有することで学びが広がることを実感した。</p>	<p>先日のクッキング活動から野菜について興味が高まった状態で行えたのがより探求心を深められてよかった。様々な違いに気づき、子どもたちからたくさんの「声」が聞かれ、また友だちの気づきにも耳を傾けている姿がたくさん見られた。その後、野菜を使った見立て遊びや大型製作などの遊びに発展し、子どもたちの満足感も大きかったように思う。</p>



テーマ	実施クラス	実施保育者名
アート	5 歳児 らいおん 組	川邊

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
近年注目されているSTEAM教育の中でも、特に子どもたちが日常生活の中で触れる機会が少ないアートを題材とすることで、「感じる」「考える」「伝える」経験を積み重ね、自分の意見をもつことの楽しさや相手の考えを受け入れる心を育むことを狙いとする。	
活動スケジュール・活動内容	
10月	<p>日常にあふれる色について知り、感じ方を探究する</p> <p>①色とは…色の原料から何色になるかを考え、絵の具や素材を用いて再現してみた。作った色から受ける印象を話し合った。</p> <p>②色の三原色と組み合わせ…三原色について知り、色水を使って混色を行った。明るさや濃さの変化を試した。</p> <p>③色の世界…色眼鏡を作成し、色眼鏡を通すことで見え方・感じ方が変わることを体感した。</p> <p>④虹色を作る…5色から、7色を作ってみた。実際に作った色で虹を描いた。</p>
11月	<p>錯覚、見え方の違いを体感する</p> <p>①何が見える?…錯視絵を用いて、見え方の違いを楽しんだ。立体はしごを作り、見え方の違いを体感した。</p> <p>②目の錯覚…トリックアートを観察し、長さや大きさが違って見えるが実際には同じである不思議を体感した。</p> <p>③見る向きで変わる絵…左右で見え方が変わることを体感し、実際に仕掛けアートを作成してみた。</p> <p>④片目での見え方…両目と片目で見比べながら見え方の違いを体感した。</p>
12月	<p>名画について知り、技法を知る</p> <p>①名画を知る…風景画や人物画、抽象画など、見比べて色や雰囲気、感じ方の違いを体感した。</p> <p>②技法を知る…絵画で使われていた技法を知り、実際にコラージュ作品を作ってみた。</p> <p>③表現について知る…太い線や細い線、色の重ね方などを名画から学び、実際にやってみた。作品と取り組んだ技法を共有した。</p>

● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
<p>子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本を用意した。</p> <p>色体感のため、色画用紙、色の原料写真、色見本、食紅(色水用)、カップ、スポイト、トイレトーパー芯、カラーセロファン、セロテープ、虹の見本絵、絵の具、パレット、筆など。</p> <p>錯視絵などの見本絵。長さや大きさ比べ用の素材(短冊など)。</p> <p>名画やイラストのカード。コラージュ用の素材(雑誌、英字新聞、パンフレット、写真、毛糸、モール、布の切れ端)、作成用の画用紙、ボンド、はさみ。</p>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>導入でいろおにをして色について興味を持った。色の原料の写真から何色が出るかを考えた。また12色の画用紙の中から好きな色を選び、この色が好きな理由を考えることで色への理解を深めた。また寒色暖色中性色について知り、色のイメージをみんなです話合うことで更に色への興味を深めた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「この色は明るくて楽しい感じ!」、「青好きだけどピンクと並べたら暗い色に見えちゃうね」、「〇〇から色ってできるんだね」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・「この色を見てどんな気持ちになる?」「どんな場面でこの色が使われているかな?」と問いかけながら、子どもたちが色の持つ意味を考える手助けをした。また色の役割についても簡単に紹介し、興味を広げるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、色の違いや組み合わせに強い関心を持ち、「自分でも色んな色を作りたい」と興味を深めていた。</p> <p>・自分の好きな色を選び、その理由を考えることで、色への理解が深まり、表現する力も育まれていた。</p> <p>・色彩心理の話に興味を示し、思い思いに頭に浮かんだことを発言していた。</p>	<p>「色」については前から興味が高かった子どもたちだった。また「英語探求」でも色に触れていたので関連制を持って取り組めたことがよかったと思う。色彩心理については先入観のない子どもたちならではの感性や感覚が現れていた。</p>



テーマ	実施クラス	実施保育者名
おかね	5 歳児 らいおん 組	川邊

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
「お金の価値」や「選択と判断」、「貯める・使う・分け合う」といった金融の基本的な概念を、遊びや実生活を通して体験的に探究することで、お金の仕組みや社会との繋がりへの理解を深める基盤を育むため。	
活動スケジュール・活動内容	
1月	<p>お金とは何か、また必要性や役割について知る</p> <p>①お金とはなにか…どんな場面で使っているかを考えた。物々交換から発生する不自由さからお金の必要性、役割を体感した。</p> <p>②お金ってどんな形…模擬貨幣を用いて色や形、重さ、数字の大小などを観察した。その上でオリジナル貨幣を考え、作ってみた。</p> <p>③お金の価値…模擬貨幣を用いてお店屋さんごっこを行い、買ったもの・買えなかったもの、なにを優先したのか、物の価値などについて考えた。</p> <p>④必要なものと欲しいもの…カレーを作るために、限られたお金で何を買うべきか？また、必要なもの・欲しいけど買わないものなどグループに分かれ考えた。</p>
2月	<p>お金の使い方を考え、体感する</p> <p>①お仕事とお金…先月の活動より、買えなかったものを買うには、お金を得るには、という視点でお仕事をして模擬通貨を得る体験をした。</p> <p>②貯めるって？…得たお金を使うか、貯めるかを考えた。貯めておく財布を作った。</p> <p>③値段…同じような商品でも値段が違うことがあることを学び、値段の違いにある背景や、選択する理由などを考えた。</p> <p>④お仕事を考える…グループに分かれ、やってみたいお仕事を考え、必要なものを検討した。</p>
3月	<p>お仕事とその対価について考える</p> <p>①価格を考える…先月の活動より、考えたお仕事の価格について買いやすい価格・適正な価格について検討した。</p> <p>②お仕事の準備…考えたお仕事について、商品やお店の準備、提供サービスの案内など必要なものを準備した。</p> <p>③お仕事を通じ売買体験…前回準備した商品やサービスをもとにお店屋さんを展開し、お仕事をする・対価を得るを体感した。</p> <p>④お金を分け合うことの体感…公園を例に、みんなでお金を分け合うことを学び、何があったら嬉しいか、みんなのお金の使い道を考えた。</p>

● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
<p>模擬商品(複数)、模擬貨幣を用意した。</p> <p>オリジナル貨幣作成のため、画用紙、クレヨンや色鉛筆などを用意した。お店屋さんごっこ用に買い物かご、値札、商品カード、模擬レジ。</p> <p>お財布作成用の折り紙、マーカー。</p> <p>お仕事計画用の模造紙、筆記用具。</p> <p>公共施設イメージのため、見本写真。</p>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・前回の活動を振り返り、お金が交換に便利な道具であることを確認した後、実際のお金がどんな形、色、模様かについて考えた。</p> <p>・自分たちで新しいお金を作るなら、どんな形、値段、絵にしたいかを考え、自由な発想でオリジナルのお金を描く活動を行った。</p> <p>・オリジナルのお金を使い、買い物ごっこを行った。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「どんなお金作ろうかな」「大きさを覚えてお金の値段変えようかな」と考えて作っていた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・見た目だけでなく、感触や重さの違いなど、観察する視点を広げられるように援助した。</p> <p>・現実のお金にとらわれず、子どもたちの自由な発想を尊重するよう配慮した。</p> <p>・発表時、質問や問いかけを通して発表内容が具体的になるように援助し、友達の作品で気づいた点を認めていくことを意識した。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・オリジナルお金作りでは、子どもたちの自由な発想を褒めることで、やる気にも繋がり黙々とお金作りを行っていた。また他児と被らないように作る姿も見られた。</p> <p>・自分達で大きさによって、お金の価値を変えるという考えを自ら持つことも出来ていた。</p>	<p>日頃は玩具の一つだったり大人が扱うものである「お金」だが、ルーツを知ったり、「お金」とは何か。をみんなで探求することで「お金」について身近で大切なものであることを知ることができたと思う。自分のオリジナル「お金」を作成することは遊びを通して「お金」に親しむ体験となった</p>

